報告書

<table>
<tr><td>氏　　名</td><td>川又　湧也</td></tr>
<tr><td>研　修　名</td><td>異文化交流演習</td></tr>
<tr><td>主催団体名</td><td>福島大学　人間発達文化学類</td></tr>
<tr><td>研　修　国</td><td>カナダ</td></tr>
<tr><td>研修期間</td><td>9月1日　～　9月24日（24日間）</td></tr>
<tr><td>研修目的</td><td>日本とは異なる社会的背景を持つ地域の教育・文化について学ぶ。異文化体験や異文化理解、国際理解教育や開発教育を通して、世界とわたしたちとの関係について学び、グローカル化に対応できる人材となることを目指す。</td></tr>
<tr><td>研修内容</td><td>
<table>
<tr><th>日付（現地）</th><th>時間</th><th>場所</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>9月1日</td><td>15時00分</td><td>成田空港第一ターミナル</td><td>集合時間厳守</td></tr>
<tr><td>9月1日</td><td>17時10分</td><td>成田空港</td><td>出発（77W便）</td></tr>
<tr><td>9月1日</td><td>14時35分</td><td>シカゴ空港</td><td>到着</td></tr>
<tr><td>9月1日</td><td>19時35分</td><td>シカゴ空港</td><td>出発（UA3975便）</td></tr>
<tr><td>9月1日</td><td>21時54分</td><td>ウィニペグ空港</td><td>空港にてホストファミリーと合流しステイ先へ</td></tr>
<tr><td>9月3日</td><td>9時00分</td><td>ウィニペグ大学</td><td>プログラム開始</td></tr>
<tr><td>9月23日</td><td>10時53分</td><td>ウィニペグ空港</td><td>ホストファミリーに見送られ出発（UA5775便）</td></tr>
<tr><td>9月23日</td><td>13時20分</td><td>シカゴ空港</td><td>到着</td></tr>
<tr><td>9月23日</td><td>17時25分</td><td>シカゴ空港</td><td>出発（NH111便）</td></tr>
<tr><td>9月24日</td><td>20時30分</td><td>羽田空港</td><td>到着（各自帰宅）</td></tr>
</table>
この中で、ホストファミリーやウィニペグ大学の学生と観光地等を見学したり、大学でカナダの文化や歴史について英語で学んだり、日本の魅力について英語で発信したりした。
</td></tr>
<tr><td>研修の成果</td><td>研修を通して学んだことはたくさんあったが、その中でも特に印象的だったことが大きく２つある。一つはカナダでの福島の認識である。ウィニペグ大学にはいろんな国から留学生が英語を学びに来ていて、その中で何度か自己紹介をする場面があった。そこで、出身を聞かれて「福島」と答えると、カナダに住んでいる人の多くは福島といってもどこのことだかわからないが、韓国人や中国人といった東アジアから来た人の多くは、福島というと“Can you live there?”や“Are there people in Fukushima?”といったように福島が東日本大震災によって被害を受けた地域だとすぐ分かり、また同時に放射線量が高い地域だと考えていたのだ。また、授業の中で自分の地域の紹介をするコーナーでは、先生がグーグルでパワーポイントに映しながら</td></tr>
</table>

	福島と検索したとき、出てきた写真が全部震災関連の写真であり先生が驚いていた場面もあった（その中には福島とは全く関係のない地域の被害の写真が掲載されている)。さらに、自分がいたクラスの留学生を対象に実施したアンケート調査の中で、福島の食べ物を食べることができない理由について答えてもらう箇所では、「食べられるわけがない」といった内容がいくつか書かれていたりもした。これらは、自分にとっては衝撃的なことで、日本に近くて観光客も多いアジアの地域を初めとした国々で、福島に対する認識が震災当時から全く変わっておらず、いかに世界に今の福島の安全性を伝えることが難しいのか改めて実感するとともに、福島に住んでいる身としてこういうことを実感して悲しかった。これらの中にあった福島に対する誤認を払拭し、カナダでできた友達に堂々と福島を紹介できるように、英語の勉強を引き続き行っていきながら、改めて福島の情報発信に力を入れようと思った。 　二つ目はホームステイをする中で感じたことで、カナダの文化の多様性である。これはカナダの食文化から感じることができて、訪れる以前から楽しみとともに心配をしていたことであった。だが行ってみると、ホストマザーは料理が大変上手で、かつ毎日料理が違っていて、一度も飽きることがなくカナダの食事を楽しむことができた。というのも、私のホストマザーがカリブ諸島出身であり、旅行が趣味であったことから、カナダの料理だけでなく、メキシコ料理や島で食べていた料理を提供してくれたのである。ただ、ほかの友達のホストマザーもカナダ出身という人はおらず、多くがフィリピン人だったため、多くの友達はフィリピン料理を楽しんでいた。また、道を歩いていても白人から黒人までいろんな人種の人がいて、多民族主義を肌で実感することができた。私はこれを見て、日本のように難民や移民をなかなか受け入れない単民族国家とは違うカナダに、面白さやうらやましさを感じるとともに、これだけたくさんの人種を受け入れているにもかかわらず、安全な国を保てていることがすごいなと感じた。 福島の認知度に関するアンケート 〈https://jp.surveymonkey.com/results/SM-MYG5TBBLV/〉
今後の取組	この研修を生かして第一にやりたいことは、SNSによる福島の発信の強化である。 　Facebook をはじめ、インスタグラムやツイッターでも、いままで以上に福島のいいところを発信していくことで、福島に行ってみたいなと思ってくれる海外の人を増やしていきたいと思った。 　もう一つは同級生や先輩への報告会を実施することである。これは授業として義務づけられているものだが、その場を生かして本当の福島が今どのくらい世界に知られているのかをほかの人たちにも再認識してもらえる場になるような発表をして、多くの人に問題意識を持ってもらいたいと思う。 　また同時に、福島大学にも今年の秋から交換留学してきた学生がいるので、一番身近な存在である彼らに福島の魅力を伝えていくことは、一番大切なこととして行っていきたい。

ホームステイの食卓

“Human Rights”で話を聞いている様子